

中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所
地域教育支援スタッフ

no
5

チュウホク ドット コム

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013

中北の地域社会 (COMmunity) の心の交流 (COMmunication) をめざします

プラス チームワーク + チームプレー

中北教育事務所
副所長 石丸 洋一



新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、希望を託す新たな年の幕開けとなりましたことに心よりお喜び申し上げます。また、日頃より中北教育事務所の地域教育関連へのご理解ご協力に厚く感謝いたします。

さて、去年は「文化の風とあそぶ～みつめる・こえる・つながる～」のテーマのもと、第28回国民文化祭・やまなし2013が全国初の通年開催として季節ごとのステージにより会期303日間というスケールで行われました。このことは、皆様の脳裏にも印象強く残っていることと思います。暮らしの中の文化をみつめ、魅力あふれるふるさとづくりへと、地域での身近な人との繋がりをとおして、県民一人ひとりが

関わりながら山梨の「文化の風」を全国へと発信できたのではないのでしょうか。

そのようななか、各市町村を舞台にした様々なイベントをとおし、地域住民の一人ひとりが関わり合いの輪をつくり結束されたチームワークのもと、魅力あふれるふるさとづくりへのさらなる地域振興の向上が図られたことと思います。

ところで1995年から始まった昨年末の「今年の漢字」では、2013年の世相を漢字一字で「輪」と決め、森清範貫主が「清水の舞台」で、特大の筆で揮毫したことも記憶にあることと思います。当時の記事には、2020年東京五輪の開催決定や官民のチームワークで実現した富士山の世界文化遺産登録へのこと、国内外で起きた災害からの復興への輪が広がったことが挙げられていました。また、森貫主は「さらに力を合わせ、平和の輪がつながることを願う」とも話していました。力を合わせるということと言うならば、そこにはチームワークが不可欠であり、その組織の一人ひとりの連帯意識が大切になると思います。また、個人が協力し合う行動と働きによるチームプレーの取り組みも大切なことではないでしょうか。チームプレーは、皆が同じことをしているのではなく、一人ひとりが違うことをしていても一つになることであると思います。これから地域住民が、チームワークという組織力とチームプレーという一人ひとりが役割を担っての結束力という、それぞれの「輪」が対となった組織体制を構築し、一人ひとりが魅力あふれるふるさとづくりを意識して、「ふるさとを愛し、世界に通じる人づくり」に努めていきたいと思います。

中北教育事務所職員もチームワークとチームプレーの輪をつなげた両輪での職務遂行に邁進していきたいと思いますので、昨年同様、皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、今年の干支は、午です。「ものごとが“うま”くいく」「幸福が駆け込んでくる」などと言われますように、皆様にとって素晴らしい年になることを願っております。

平成25年度「山梨県保・幼・小連携教育研修会」

開催

山梨県教育委員会の主催による「平成25年度保・幼・小連携教育研修会」が、県内3か所の会場で地域ごとに開催されました（10月22日富士・東部地区：大月市民会館、10月24日峡南・中北地区：桃源文化会館、11月5日峡東・甲府地区：総合教育センター）。

この事業は、保育所(園)・幼稚園・小学校の連携を深めることによって、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図っていこうとするものです。小学校入学にともなう「小1プロブレム」や小学校における学級崩壊などに対する理解と対処を考える上でも注目される取り組みで、保育士・幼稚園教諭と小学校教諭が顔を合わせ、学識者による理論や他地域の実践事例等から相互理解の重要性を学び、情報交換と連携・交流を深めることで日常の保育・教育の充実を目ざします。

このうち中北管内に関するものは、10月24日には桃源文化会館にて、南アルプス市立落合小学校・同落合保育所が、11月5日には総合教育センターにて、甲府市立貢川小学校・貢川進徳幼稚園がそれぞれ発表しました。またそこでは、山梨大学教育人間科学部の高橋英児准教授、中村和彦教授による講評と講演がありました。

南アルプス市立落合小学校・南アルプス市立落合保育所 「より深い連携をめざして」



活動のポイント

・保育所児・児童の教育のねらいを明確にし、双方に利点がある活動になるような取り組みを考える。・指導者がお互いに保育所児・児童理解を深めるために、懇談会や保育参観・授業参観を行う。・保育所の教育と小学校教育の連続性を意識し、お互いの教育について理解すると共に、計画に沿って交流を深める。・保育所児が、小学校の生活にスムーズに適応できるように、保育所で取り組んでいるCLMを大いに活用し、ひとり一人に関しての情報を綿密に交換し、共通理解のもと準備等を行い、その後の指導に生かす。

甲府市立貢川小学校・貢川進徳幼稚園

「子どもたちのすこやかな成長 をめざして～保幼小の連携を 通して～」



活動のポイント

・幼児と児童にとって共に、育ちや学びにつながる交流活動を行う。・幼稚園教員と小学校教員が、互いの授業や保育を参観しあうことで、保育・教育内容や指導方法の相互理解を図る。・保幼小連携を年間指導計画に位置付ける。(小学校スタートカリキュラムの構想)・園児の保護者と小学校教員との交流の場を設ける。
※様々な活動が継続できるよう、無理のないように取り組む。

成果と課題

<成果>

・児童が年長児への関わり方を学び、自分の成長にも気付くことができた。・年長児が小学校に対しての安心感や期待感を持つことができた。・園児と小学生とのよい関係づくりができた。・配慮の必要な園児を知り、支援をつなぐ体制づくりをすることができた。・園児の保護者にとって、入学前に小学校の様子を知ることができ、安心して就学を迎える助けになったと思う。

<課題>

・学びをつなげるための指導において、どこに重点を置くのか検討していきたい。・連携している園に加え、それ以外の園との交流の持ち方についても、実施日や打ち合わせ時間の調整も含め、課題である。・小学校入学までに最低身につけさせてほしいことを年度当初に提案して、1年かけて園で取り組めるようにしていきたい。・幼小で連携して、入学前、入学直後の保護者個々の不安を受け止め、取り除けるような仕組みをつくってきたい。

「保幼小連携をどうすすめていくか」

山梨大学 教育人間科学部 准教授 高橋 英兒 氏

I. 保幼小連携の成果—報告書を読んで

1. どのようなことを連携しているのか

・情報伝達—気になる子などの情報伝達 ・異年齢・異文化交流—学校行事(活動)への招待など ・保育・授業の参加・参観—指導者がそれぞれの校種の教育活動、指導の仕方を知る ・接続期の子どもの育ちについての意見交換—子どもの普段の様子、小学校・保育所・幼稚園からの要望、保育・授業記録の検討や学習会、地域の子どもの育ちを保障する教育課程をどう創るかなど

2. どのような成果と可能性がひらかれたのか

- ①子どもと子どもがつながる—園児と児童の関わり
・子ども同士の関わりが持つ教育力の存在(子どもが相互に学び合っている姿)—成長していくことへの夢と希望、自己肯定感を育てている cf.)子どもの感想
- ②子どもと大人がつながる—子どもの育ちを見守る大人との関わり ・顔見知りの大人/子どもと卒園後もかかわってくれる ・気にかけてくれる大人を知る
- ③大人と大人がつながる—子どもの育ちのために校種を超えて協力する大人 ・接続期を見通した教育課程の共同編成—保幼小の接続のための教育課程のあり方の模索、共同の教育課程(主として行事など)の編成 ・情報交換から情報の共有、そして学び合い—互いの実践を交流し検討することを通じて、互いの指導から学び合っている姿

II. 保幼小の取り組みを発展させていくために

1. 互恵性のある交流のあり方の追求

・それぞれにとって「意味」と「成果」のある交流とは何か

—園児にとっても児童にとっても「意味のある学び・経験」の追求: 相互の主体性が発揮される指導、また活動のあり方の議論の必要性 cf.)お世話する—される、教える—教えられるという一方向の関係ではない
—各校種の独自の指導課題を知る、互いの指導から学ぶ、自己の指導のあり方を見直す

2. 子ども理解・子ども観をとらえ直すチャンスに—子どもの発達・成長を長期的に見守る

・子どもの成長を連続的にとらえる—子どもの育ちを知る、子どもの「事実」をつかむ—子どものこれまでの(生活)経験を大切に; 児童の成長は小学校から始まるのではなく、保育園・幼稚園から連続している。複数の目から子どもをとらえることで子どもの理解が深まる。
・「困った子」は「困っている子」—私たちの子どもへのまなざしをとらえ直す—「小一プロブレム」は誰の問題か? ; 教師の困り感ではなく子どもの困り感を大切に—子どもを学校に合わせるのではなく、子どもと学校が共に変わるという視点

3. 保育園・幼稚園と小学校の共同・協同の学びを創る

・園児・児童の主体的な活動を支える環境をどう創るかという視点から、教育課程を共同で創造する—それぞれの指導のあり方を見直す必要性—接続・連携は、小学校教育の先取りや保育園・幼稚園の穴埋めでもない—段差をなくすという発想ではなく、園児・児童が乗り越えられる課題を知り、その実現を支え励ます教育課程のあり方を考える

平成25年度 山梨ことぶき勸学院 第27回勸学院祭 ~第2回ふれあい行事~

平成25年10月17日(木) 甲府市のコラニー文化ホールで 第27回勸学院祭~第2回ふれあい行事~が開催されました。

【開会行事】

「勸学院 学ぶ楽しさ 豊かな心」のテーマのもと開催された今年度の勸学院祭。テーマに採用された院生の表彰のあと、勸学院長(滝田教育長)は挨拶で、「学び合う教室の仲間たちと、コラニー文化ホールのステージに立つという貴重な体験を、是非大きな幸せとして、体全体で感じるとともに、県内6教室相互の理解を深め、山梨ことぶき勸学院の県下全域でのネットワークを強めてほし

い。また、今回初めての企画である、勸学院OBの方々の発表にも大きな刺激を受け、今後も新たな目標を持って学んで



いただきたい。勸学院祭の基本は「楽しむこと」であり、今日は有意義で楽しい一日を過ごしていただきたい。学院長としても、新体制での運営の中、学生の皆さんの満足度を上げていけるよう、より一層の努力をしていきたいと思う。」と述べられました。

【舞台発表】

甲府教室1・2年生が最初に登場し、羽生美智子先生の指揮・金森雅枝先生の伴奏で「日本の歌メドレー」「上を向いて歩こう」(2年57名)「グループサウンズメドレー」(1年59名)東日本大震災復興支援曲



甲府教室 1・2年

「花は咲く」を1・2年合同で合唱しました。グループサウンズメドレーでは、若かりし頃に培ったエレキギターの演奏も交え、発表を盛り上げました。

3番目に登場した、中北教室1年34名は、星ひろ美先生の指導のもと、練習を積み重ねてきた「大きな古時計」「一週間」



中北教室 1年

の2曲を、清水兼三さんの指揮のもと披露しました。「参加した皆さんの一人ひとり表情が素晴らしかった。歌う度によくなっていった。(講評)」

舞台発表の“取り”として最後に登場した、中北教室2年生52名は、中北教室「のど自慢 頓珍漢」で



中北教室 2年

歌とダンスを披露しました。「演出の素晴らしさと臨場感のある演技で会場と一体となって盛り上がったところがよかった。(講評)」

勸学院祭に向けては、それぞれのグループが、講座終了後、大道具や小道具の製作、衣装合わせ、練習等に励み、NHKホールでの催しにも匹敵するような舞台を披露し、会場全体を盛り上げました。

【OB発表・異世代交流】

発表の中には、勸学院を卒業した後も、サークル活動を続けているグループの発表もありました。合唱クラブ「絆」,「笛の風」は、三部合唱も交えながら、素晴らしい歌声を5曲披露しました。

また、ことぶき勸学院大学院 都留学園大月校 平成24年度卒業生による調査研究発表『郡内と国中を結ぶ“笹子峠”の歴史』は、積み重ねてきた調査研究の重みを感じさせる素晴らしい発表となりました。この研究成果は、地域の学校でも紹介され、勸学院の活動が地域に貢献する一助ともなっています。

最後に、異世代交流として山梨高校吹奏楽部の発表がありました。山梨高校は吹奏楽の実力校で、今



山梨高校 吹奏楽部

年度も県吹奏楽コンクールにて金賞、西関東吹奏楽コンクールにおいても金賞を受賞しています。「日本の情景(秋)」

「演歌メドレー」等、勸学院生に合わせた選曲や舞台構成で観客を魅了しました。

【勸学院祭の成果・今後に向けて】

各教室とも、この勸学院祭に向けては、夏から取り組みました。合唱は講師の先生をお願いし、教室の講座の後、約5回にもわたる指導をいただき、練習を重ねてきました。参加者の声として「舞台装置、衣装、振り付けなど、練習以外でも仲間と共同作業をすることで、絆が更に深まっていった。」「練習の度ごとに絆が深まった。」「活動により深く関わることで、仲間が増えた。」などの感想が聞かれたことは、この勸学院祭がもたらした大きな成果を物語っています。

今後は、この成果を生かしながら、勸学院生が、地域づくりにいかに貢献できるかが課題といえるでしょう。

まもなく平成26年度の生徒募集が始まりますが、この素晴らしい“学習の機会”をぜひ多くの方に知っていただき、活用していただきたいと思ひます。

☆☆☆ お知らせ ☆☆☆

《 峡中・峡北地区合同研修会及び峡北地区地域教育推進連絡協議会 》

期日：平成26年2月13日(木) 午後2時

会場：北巨摩合同庁舎 3階 301会議室

平成25年度『中北.com』No.5

編集・発行
中北教育事務所 地域教育支援担当
飯窪 阿部 今福

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4
電話 0551-23-3046
ファックス 0551-23-3013

『中北.com』は中北教育事務所のホームページでもご覧になれます。

アドレスは次のとおりです。 <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/index.html>